

幸いな人

(詩篇41・1～13)

一、幸いな人

きよう開きました41篇は、第一巻の終わりの詩篇です。第一巻を締めくくる41篇は、どのような言葉で始まっているでしょうか。1節をご覧ください。〈幸いなことよ〉で始まっています。それは、詩篇1篇の始まりと同じです。詩篇1篇は〈幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。〉で始まります。すなわち、第一巻は「幸い」に始まり「幸い」に終わっていることが分かります。編集者が意図的にそのようにしたものと考えられます。

では、どのような人が幸いなのでしょうか。1節の〈幸いなことよ〉は、1節の2文目から3節まで、かかっています。まずは、1節2文目です。〈弱っている者に心を配る人は〉です。痛んでいる人を見たときに、居ても立ってもいられなくなる人です。神が人となられた主イエスがそうでした。主イエスは痛んでいる人(々)を「ご覧になり、深く憐れられました。不思議なことに、憐れみ深い方は主の御助けを体験します。1節3文目です。〈主はわざわいの日にその人を助け出される。〉とあります。まことにそのとおりです。

続いて2節に〈主は彼を見守り、彼を生きながらえさせ、地上でしあわせな者とされる。〉とあります。その意味は、良いことづくめになるといふことではありません。主イエスはおっしゃいました。〈天の父は、悪い人にも良い人も太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださる。〉と。このお言葉は、その逆についても言えるかと思えます。人は、悪い人間であつても良い人間であつても災いに遭い、正しい人であつても正しくない人であつても病になると。41篇の作者は病床にあつたようです。3節で、次のように語られていたからです。〈主は病の床で彼をささえられる。病むときにどうか彼を全くいやしてくださいように。〉と。〈彼〉とは、作者自身のことです。この詩篇が生まれた時代、「病は罪を犯した結果である」と受け止められていました。そういう状況にあつても、〈主は病の床で彼をささえられる〉と、作者は自分のことを語っています。創造主なる神を信じるとは、昔も今も同じです。こういう人を指して、「幸いなことよ」と語られています。

二、信仰の限界

詩人は自分が病に冒されている理由が、自分の犯した罪のゆえであると受け止めていました。4節です。〈私は言った。主よ、あわれんでください。私の

たましいをいやしてください。私はあなたに罪を犯したからです。〉と。私共はいつの時代も限界を持って生きています。日常生活の中で「これが御心だ」と思つても、それは限りある自分が受け止めた「御心」であつて、「神のお考えは自分を超えている」と思う謙遜がたいせつなのではないでしょうか。

三、幸いでない人

5節から9節までは、幸いでない人の姿が描かれています。まずは5節です。〈私の敵は、私の悪口を言います。〉「いつ、彼は死に、その名は滅びるのだろうか。〉と。どうして、こんなにひどいことを敵は語るのでしょうか。理由は、この言葉を語った者が元気でであり、詩人が病の中にあるからです。6節です。〈たとい、人が見舞いに来て、その人はうそを言い、その心のうちでは、悪意をたくわえ、外に出ては、それを言いつらす。〉とあります。

幸いでない人の描写が、さらに続きます。7節～9節です。〈私を憎む者はみな、私について共にささやき、私に対して、悪をたくらむ。〉「邪悪なものが、彼に取りついていて、彼が床に着いたからには、もう二度と起き上がれまい。私に信頼し、私のパンを食べた親しい友ですが、私にそむいて、かかとを上げた。〉とあります。この「幸いでない者」「どうしようもない者」は、だれなのでしょう。

うか。それは、罪の奴隷となっている私の私共の姿です。幸いにして、神は御子イエス・キリストを遣わしてくださいましたから、主イエスを信じる者は救われ、罪の奴隷から解放され、神のしもべ(＝奴隷)とされました。従つて、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

四、信仰者の願い

10節から12節までは、作者の願いの言葉が書かれています。いきなりこの言葉を見たら、特に10節後半の〈そうすれば私は、彼らに仕返しができます。〉を見たら、驚くことと思います。しかし、詩人は病の中にあり、それまで仲間と思つていた者たちからあざ笑われている状態です。それを知るなら、詩人の怒りは「悪魔」に対するものであると知ります。ここに現れているのは、人の怒りではなく、神の怒りです。そして、私共が知るべきは、神は不義に対する怒りを御子イエス・キリストに下されたこととです。罪人に対する、義なる神の怒りは、すべて御子イエス・キリストに下されました。これが、新約に生きる私たちの信仰観です。私の罪のためだけでなく、自分を苦しめた人の罪のためにも、主イエス・キリストは、神の聖なる怒りを受けてくださいました。

イエス・キリストを知り、神をほめたたえる者は幸いな人です。